

活動分野	森に親しむ野外講座		
タイトル	東大田無演習林と野川公園		
実施日時	平成30年4月24日（火）8時～18時		
実施場所	東京都 西東京市、調布市		
受講者	40名	F I C会員他スタッフ	7名

### 活動の内容

最初に昭和7年築の田無演習林庁舎前にて挨拶したのち班に分かれ、センペルセコイアとメタセコイアを同時に見ながら両者の違いの説明。歩き始めてから、シナアブラギリの南国のような花が落ちていました。しばらく右左の林の様子が変わることを意識しながら歩いてもらいました。感想を聞くと右はうっそうとしているとの声。右は長期生態系観測プロットであり、1980年頃から人の手を加えずに森林がどのように変化するか調査している林です。カエデ見本林を過ぎると、ハンカチノキの花が咲いていました。ピークは少し過ぎましたが上の方までハンカチのような花がひらひらと風にそよんでいます。新緑のメタセコイア林や外国産樹種見本園を見て、苗畑では学生が種まきと床替えの実習したところを見学。畑を出る右手にヒトツバタゴ（なんじゃもんじゃの木）の花が満開で、雪をかぶったようになっていました。例年ピークは5月上旬なのですが、今年は10日ほど季節が早かったおかげで運良く見る事ができました。

次は隣の生態調和農学機構にある農場博物館をボランティアの案内で見学しました。旧乳牛舎だった建物を修復した建物で、古い農機具や教育資料などが展示してあります。

昼食ののちバスで野川公園に移動しました。自然観察園は、国分寺崖線（ハケ）の湧水沿いに位置します。ボランティアによる手入れが行き届いており、貴重な草花が残されています。一年のうちで最も花が多い時期で、オドリコソウ、ホタルカズラ、オウギカズラ、ワニグチソウ、エビネ、キンラン、ヒイラギソウ、ムサシアブミ、コンロンソウ、チョウジソウ・・・と様々な草花が見られ、参加者の皆さんはとても満足したようです。



田無演習林庁舎前にて



シナアブラギリの花を拾う



ヒトツバタゴの花



変わった樹皮のエゴノキ



ムサシアブミの観察



チョウジソウの観察